

群馬県みなかみ町

利根川源流域を守るみなかみ町の 多角的取り組みについて



みなかみユネスコエコパーク(2017)
SDGs未来都市(2019)



みなかみ町の位置



日本列島の真ん中です

▲ぐんまちゃん
(群馬県マスコットキャラクター)



みなかみは首都圏から近い！

■上越新幹線を利用
東京駅から最速62分

■関越自動車道を利用
練馬から1時間30分



みなかみ町の概要



自然を活かした
観光と農業が盛ん

町の人口

町の人口（令和8年1月1日現在）

- ・ 総人口 16,588人
- ・ 男性人口 8,184人
- ・ 女性人口 8,404人
- ・ 世帯数 7,911世帯

町の特徴

- 利根川の最上流域で、首都圏約3,000万人の水瓶の町です。（大小7つのダムと13の発電所が整備）
- 新潟県境の谷川連峰は中央分水嶺となっていて、太平洋側と日本海側の気候の移行帯になっています。
- 上信越高原国立公園をはじめとする様々な自然保護区に指定されるなど、貴重な自然がたくさんあります。
- 観光と農業が主要産業で、農村文化を活かした「たくみの里」や果樹園でのフルーツ狩り、自然の恵みの温泉や豊かな自然環境を活かしたアウトドアスポーツなどが盛んに行われています。

利根川の最初の一滴



利根川水源の石碑

大水上山の雪渓

首都圏30,000,000人の生活をささえる利根川

県別に見る利根川水系に依存する水道の給水人口



矢木沢ダム
奥利根湖

大水上山

奈良俣ダム
ならまた湖

須田貝ダム
洞元湖

藤原ダム
藤原湖

相俣ダム
赤谷湖

栃木県
149万人

茨城県
164万人

群馬県
187万人

埼玉県
713万人

東京都
1,264万人

千葉県
578万人

出典:平成19年度水道統計要

首都圏の水瓶

奥利根湖（矢木沢ダム）



矢木沢ダム放流



奥利根水源憲章の碑



奈良俣ダム

特徴的な地形

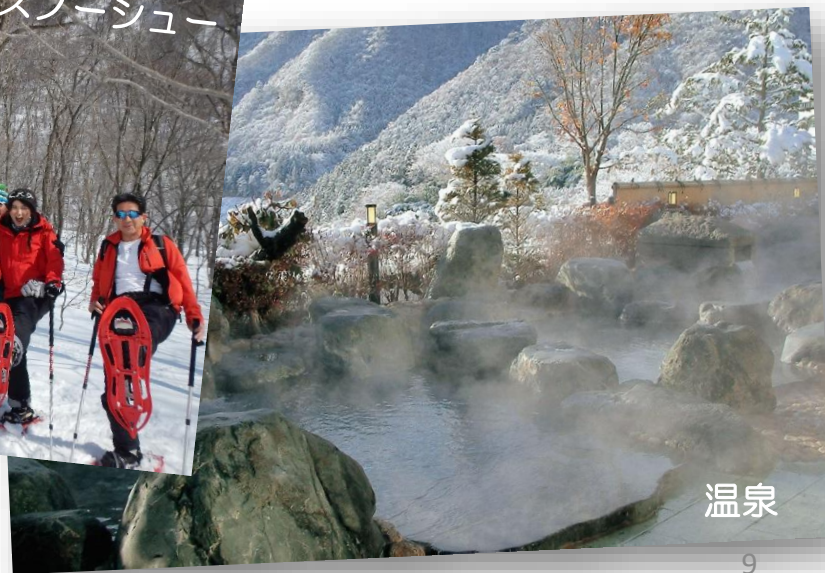
谷川岳、一ノ倉沢の岩壁



谷川連峰



自然の恵みの活用



世界に認められ



▲フランス・パリ ユネスコ本部



2017年6月14日登録

みなかみ
ユネスコ
エコパーク



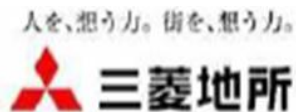
United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



Minakami
Biosphere Reserve since 2017
Man and the Biosphere Programme
ユネスコエコパーク

みなかみユネスコエコパークの 理念に賛同する企業等との取組 (一部抜粋)

みなかみネイチャーポジティブプロジェクト



みなかみ町
MINAKAMI TOWN



日本自然
保護協会



国内初、企業版ふるさと納税を活用した10年間の連携協定を締結。
ネイチャーポジティブの社会の実現をキーワードとして、みなかみ町を舞
台に、これまで続けてきた活動をベースに、新たな取組を展開する。

《2023年2月27日》

みなかみネイチャーポジティブプロジェクト

人工林⇒自然林への転換
(森林の生物多様性保全)

里地里山の生物多様性保全


ニホンジカの低密度管理

定量的評価

～自然環境への恩返し～

みなかみ町での豊かな暮らしは、自然環境がもたらしてくれる恵みそのものです。豊かな自然。それが、いつまでも当たり前であり続ける… そのために、私たちが今やらなければならないことをできることから始めていきます。「ネイチャーポジティブ宣言」それは、壊れつつある自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させることに向かって進める取り組み。2017年6月14日に掲げた「みなかみユネスコエコパーク」の理念を更に推し進めるものでもあります。




みなかみ町
ネイチャーポジティブ宣言

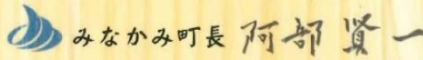
みなかみ町は、首都圏 3,000 万人の生活と経済を支える利根川最初の一滴を生み出す源流の町であり、上信越高原国立公園の谷川岳をはじめ、イヌワシやホソバヒナウスユキソウなど、日本を代表する貴重な自然が多く存在しています。これらの素晴らしい自然をまもり、観光業や農林業にいかした「自然と人が共生する姿」が世界的モデルとして評価され、2017年6月14日、「ユネスコエコパーク」に登録されました。

当町は、「みなかみユネスコエコパーク」の理念に基づき、生物多様性の損失を止め、反転させ、自然を回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」の実現に向け、産学官民の密接な連携の下、全町一丸となって取り組んでいくことをここに宣言します。

まもる
みなかみユネスコエコパークにおける自然環境・生物多様性の保護・保全の取組を推進し、人と自然が共生する持続可能な未来の実現を目指します。

いかす
生物多様性の保全回復とともに、みなかみユネスコエコパークの自然を活かしながら、地域振興や産業・教育・福祉の振興、防災等に取り組みます。

ひろめる
自然と触れ合う豊かな体験を提供するとともに、地域の魅力を広く発信していきます。また、ネイチャーポジティブの実現に向けて、企業・団体等との深い連携を推進していきます。

2024年6月14日
 みなかみ町長 阿部 賢一

森林のもつ多面的機能の回復



みなかみ町
MINAKAMI TOWN

利根川源流から始める豊かな森林と人を育む連携協定を締結
～森林のもつ多面的機能の回復にむけて多様な間伐材の活用を推進～

スターバックスコーヒージャパン株式会社とみなかみ町は、連携と協力関係を築き、協働による事業を推進することにより、地域の森林資源や自然環境を活かした持続可能な社会の実現を目指し、気候変動や生物多様性の保全などの社会的課題の解決に貢献することを目的に、2025年4月21日、連携協定を締結しました。





自然と人がめぐるリジェネラティブパートナーシップ協定を締結

～ユネスコエコパークの地域資源を起点に、生物多様性保全と循環型地域経済、Nature-based Solutionsを一体的に推進～

公益財団法人日本自然保護協会、ラッシュジャパン合同会社、みなかみ町の三者は、生物多様性の保全・再生や普及啓発、自然資源や地域特性を活かした循環経済の実現、自然に根差した社会課題の解決策(NbS)の実践を推進することを目的に、2025年12月15日、パートナーシップ協定を締結しました。



▲日本自然保護協会 土屋理事長(左)、みなかみ町 阿部町長(中央)、ラッシュジャパン 小林執行役員(右)

豊富な広葉樹資源の活用 森林の価値を高める



みなかみユネスコエコパーク
森林を育む広葉樹産業化プロジェクト

～環境・産業・地域を繋ぐ新しい事業モデルの創出～



みなかみネイチャーポジティブプロジェクト



国内初、企業版ふるさと納税を活用した10年間の連携協定を締結。ネイチャーポジティブの社会の実現をキーワードとして、みなかみ町を舞台に、これまで続けてきた活動をベースに、新たな取組を展開する。

《2023年2月27日》

みなかみネイチャーポジティブプロジェクト

- 人工林⇒自然林への転換 (森林の生物多様性保全)
- 里地里山の生物多様性保全
- ニホンジカの低密度管理
- 定量的評価



利根川源流から始める豊かな森林と人を育む連携協定を締結
～森林のもつ多面的機能の回復にむけて多様な間伐材の活用を推進～

スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社とみなかみ町は、連携と協力関係を築き、協働による事業を推進することにより、地域の森林資源や自然環境を活かした持続可能な社会の実現を目指し、気候変動や生物多様性の保全などの社会的課題の解決に貢献することを目的に、2025年4月21日、連携協定を締結しました。



豊富な広葉樹資源のカスケード利用



「利根川源流の森林資源有効活用
パートナーシップ協定」



- ① 間伐材を利用
- ② 自社チャネル
- ③ みなかみ町木
- ④ 山林環境保全

～産官学金連携包括連携協定によるまちづくり～



図：4者による連携のイメージ

- (1) 魅力ある観光地づくり及び誘致に関すること
- (2) サステイナブルな街づくりの推進に関すること
- (3) 定住・移住に関すること
- (4) 観光振興や産業振興など地域経済の発展に関すること
- (5) 環境保全に関すること
- (6) その他、住民サービスの向上に関すること
- (7) 公共施設の有効利用に資する情報交換に関すること

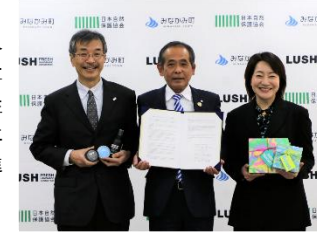
生態系と地



自然と人がめぐるリジェネラティブパートナーシップ協定を締結

～ユネスコエコパークの地域資源を起点に、生物多様性保全と循環型地域経済、Nature-based Solutionsを一體的に推進～

公益財団法人日本自然保護協会、ラッシュジャパン合同会社、みなかみ町の三者は、生物多様性の保全・再生や普及啓発、自然資源や地域特性を活かした循環経済の実現、自然に根差した社会課題解決の実践を推進することを目的に、2025年12月15日、パートナーシップ協定を締結しました。



▲日本自然保護協会 土屋理事長(左)、みなかみ町 阿部町長(中央)、ラッシュジャパン 小林執行役員(右)

みなかみ町の目指すべき姿

利根川の最初の一滴を生み出す利根川源流域に位置する「みなかみユネスコエコパーク」には、豊かで貴重な自然が数多く残されており、私たちは、様々なかたちでその自然の恵みを受け、観光や農業に活かしながら暮らしてきました。

源流地域に暮らす私たちは、地域の最大の宝であり資源である自然や景観、水をはじめとするたくさんの森林の恵みを、次世代へとつないでいかななくてはなりません。

この大切にまもり、引き継がれてきた自然環境に感謝しながら、自然と人間社会が共生する持続可能な地域を実現するため“水と森林”を育み、それを「まもる・いかす・ひろめる力」を携えた“人”を育てていくことを目指していきます。

地域の大切さや素晴らしさをそれぞれが改めて認識し、どうしたらそれをまもり・いかし・ひろめることができるかを検討し、実践していくことで、自然や地域の価値を高めます。これにより、ユネスコエコパークのブランド力を向上させ、魅力ある地域を創造し、次世代の人材が世界に誇れるような未来に輝く「みなかみ町」づくりを推進したいと考えております



みなかみ町
20周年

かがやく水を、もっとミライへ。

Our water is linked to the future.

谷川連峰よりみなかみ町を手前に関東平野を望む